



国指定史跡標識



播磨町マスコットキャラクター いせきくん、やよいちゃん

# オポナカムラ 彩発見!!

オポナカムラは古代語で「大中村」の意。国指定史跡「大中遺跡」の最新の調査をもとに、様々な観点からふるさとの誇れる遺跡について考えてみたいと思います。

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079(435)5000

## 12 弥生時代の国指定史跡は3カ所

大中遺跡の魅力をもう一度見つめ直す「オポナカムラ彩発見!!」も、いよいよ最終回となりました。今回は、国指定史跡と大中遺跡公園の自然について紹介したいと思います。

全国で国指定史跡は、1612件あります。兵庫県内には、44件の国指定史跡があり、そのうち、弥生時代の国指定史跡は、わずか3件です。播磨町の大中遺跡、尼崎市の田能遺跡、たつの市の新宮宮内遺跡です。出土品の展示施設としてそれぞれ資料館や埋蔵文化財センターが併設されています。これらの遺跡の中で、一番最初に国指定史跡となったのが「大中遺跡」です。

公園には、国指定史跡の「標識」が設置されていますが、どこにあるかご存知でしょうか。

それは、「史跡 大中遺跡」と刻まれた御影石の標識で、公園東入口に設置されています。裏面上段には「昭和42年6月22日指定」、中段には「昭和43年3月25日建設」、下段には「文化財保護委員会」(現「文化庁」と書いてありますので、一度裏面もみてください。

大中遺跡公園のもう一つの魅力は、四季折々の

風景です。春は、郷土資料館前「であいの道(別府鉄道軌道跡)」の八重桜が満開(4月下旬)となり、花びらのじゅうたんができるほどです。夏(7~8月)は、狐狸ヶ池のオニバスが大きな葉を水面いっぱいに広げ、美しい花を咲かせます。水辺にはアシ原が生い茂り涼を感じさせます。また、別府鉄道機関車の近くでは、カラムシが大きく成長しています。秋(9~11月)は、どんぐりの実がなり、子どもたちを楽しませてくれます。また、県立考古博物館前のイチヨウが黄葉し、深まり行く秋を感じさせます。冬は、さざんか(12月)や椿(1月)、梅の花(2月)が次々と咲き、訪れる人たちの心を和ませてくれます。

阿閉村から播磨町となった昭和37年に、大中遺跡が発見されました。遺跡を守り、未来の子どもたちに伝えていく取り組みは、来年50年目を迎えます。かけがえのない文化遺産として、過去から未来への交流拠点として、まちの観光資源として「オポナカムラ」が、さらに繁栄していくことを願っています。

播磨町のホームページ <http://www.town.harima.lg.jp>

Eメール [kikaku@town.harima.lg.jp](mailto:kikaku@town.harima.lg.jp)

<b>町の人口</b> 2月1日現在	(住民基本台帳人口+外国籍人口)	
34,244人 (-2人)	男...16,813人 (-4人)	世帯数...13,685 (+19)
	女...17,431人 (+2人)	

